

おわりに

今回の発表は、従来から課題にあがっていたものの実例が少なく、体系的にも定着するにはまだまだ時間が必要かと思うが、事業を実行して行く上で画一的な作業を排し、労働災害の防止及び生産性の向上に努めてまいりたい。

つたない発表であるが、皆様方のお一顧のご指導をお願いし、更に一日も早く体系作りができ普及されることを望んで私どもの発表を終る。

## ヒノキ植付時期について

福島・西野担当区事務所 中村 一 武  
 " 伊藤 国 男  
 経営課造林係 倉本 伝  
 駒ヶ根・赤穂種苗事業所 長 島 源 一  
 (前西野担当区)

はじめに

ヒノキの植付時期については、造林方針書の適期標準表で4月1日～5月20日ころまでとなっており、当署管内でも従来から5月下旬ころまでに実行している。当部内の造林地は御岳山麓の1,300メートル以上の高海拔地帯であるため、融雪時期は5月上旬となる。

しかし、この時期は開田高原の農繁期に当り、労務需給が困難で植付に支障をきたすため、植付時

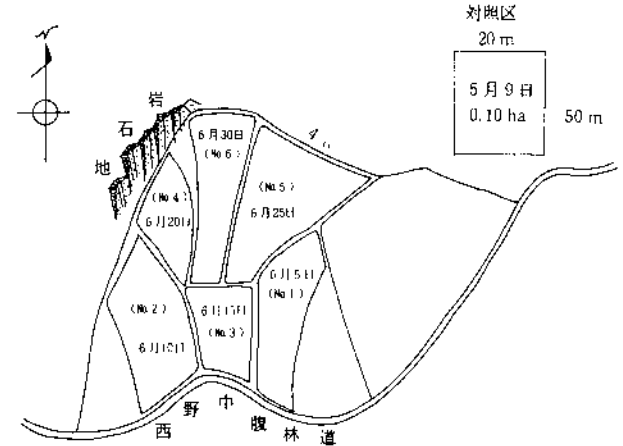
期の拡大について若干の検討を行った。

### I 試験地の概要

御岳山麓北東部の岐阜県寄りに位置し、天然林の伐採跡地で残存木が若干ある。

- 1 場所  
木曾郡開田村西野北  
山国有林4い林小班
- 2 標高  
1,450 ~ 1,500 m
- 3 地況等  
方位: SE  
傾斜: 30度  
基岩: 古生層チャート, 石礫土  
土壌: PD, BD(d), BD  
堆積様式: 削行土
- 4 植付後の保育  
7月中旬下刈実行

図-1 試験地略図



### II 試験地及び植付時期

試験地は6箇所、他に1箇所の対照区を設定し、それぞれ一定間隔(5日間)を置いて植栽した。苗木の保管は5月末日に現地仮植した。

### III 調査方法

各プロット別に、活着、枯損、成長量について調査した。

### IV 調査結果

1 活着率は表-1のとおり、5月9日植(対照区)と、試験地の6月10日植が最も良く(6月25

表-1 活着率と成長量

種別	No	植付日	面積	植付本数	正常	枯死	活着率	一本当り 苗長	一本当り 成長量
対照区		5. 9	0.10 ha	400本	388本	12本	97%	40.8 cm	9.0 cm
小計									
試験区	1	6. 5	0.05	195	184	11	94	37.7	8.4
	2	6. 10	0.04	157	153	4	97	38.7	9.1
	3	6. 15	0.07	293	282	11	96	34.7	7.6
	4	6. 20	0.05	191	183	8	96	36.5	7.7
	5	6. 25	0.07	264	263	1	100	34.0	6.8
	6	6. 30	0.06	230	191	39	83	33.2	7.4
小計			0.34	1,330	1,256	74	94	35.5	7.7

図-2 活着率・成長量

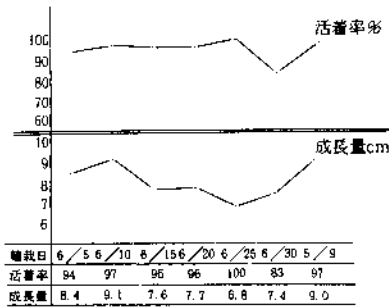
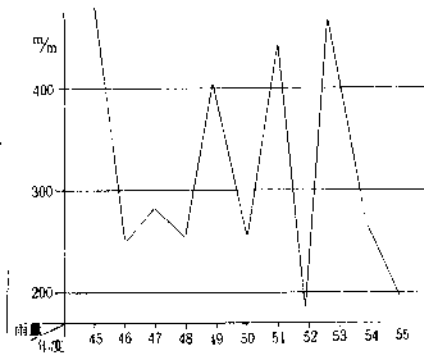


図-3 過去11か年間の6月期降雨量



日植を除き),ともに97%である。植付日の差が1か月あるにもかかわらず活着率が同率であったのは、土壌条件の類似と天候によるものと思われる。

ちなみに、11か年間の6月期の降雨量は、図-3のとおりで55年は例年より少ないことも影響したものと考える。

2 成長量は試験地の6月10日植が9.1cmと良好であった。

苗長の大きさと成長量については、図-4のとおり試験地(1~6)の成長量は、5月9日植の対照区と比較して全体に大きい苗ほど低く、バラツキが多い。

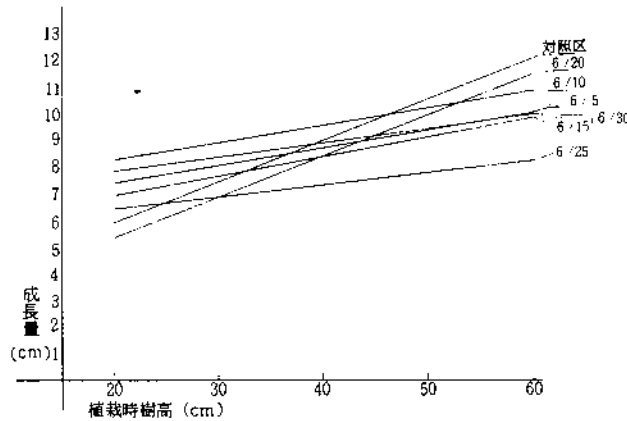
3 枯損木の多い試験地の6号区は、砂礫地の裸地であるため、干害によるものと、一部獣害によるものである。

V まとめ

以上の調査から、ヒノキの6月植栽は、気象、降水量、土壌等環境条件が適合すれば、更に活着率の向上は期待できる。

また、田植等農作業が5月末で一段落するため労務需給の調整ができる。

図-4 苗長の大きさと成長量



植付時期については、秋植等も含め拡大に向け、今後更に検討を進めたい。

ササ抑制剤の使用効果について

王滝・南滝越担当区事務所 木之下 功 男  
経営課 造林係 上ノ内 義 美  
試験調査係 斎 藤 章一郎

はじめに

当署管内国有林の植生は、ほとんどチマキザサが密生しているため、特に造林事業を推進する上で大きな障害となっている。

これらのササをコントロールすることによって、確実な更新を図り保育作業を容易にし、労働力の軽減、更には生産性の向上を図ることを目的として、ササ抑制剤(TFP)を昭和54年、55年の両年にわたって散布したので、その抑制効果と稚幼樹に与える影響等について発表する。

1 実施経過

1 散布薬剤名

- ・ 薬剤名 テトラピオン  
(商品名:フレノック粒剤10)

・ 散布方法 地上手まき

散布にあたっては、安全及び環境保全に配慮しながら現地の実態に応じて実行した。

2 散布面積

散布年月	散布面積 ha
昭54. 12	6.48
〃 55. 6	7.93
〃 〃 11	35.20
計	49.61

※詳細は表-1参照

3 散布量

ササの密度、施業の目標、経過及び抑制効果等を考慮してha当り20~50kgの範囲で箇所ごとに区分等を行って散布した。

図-1 TFP散布面積

